

琉球王国時代の船頭の屋敷「阿佐船頭殿（あさせんどうろん）」

—繁栄を物語る石垣とヒンプン：村指定文化財

座間味島は、琉球王国と中国との交易の中継地であり、この場所には、交易船の船頭の屋敷がありました。周囲の石垣は、大きなサンゴ石で造られており、今では造ることのできない大変貴重なものです。正面の石積みは「ヒンプン」と呼ばれ、外からの目隠しと魔除けの意味を持ちます。これは、高さ2m、幅8mもあり屋敷の大きさを物語っています。これらは、当時の繁栄を今も伺い知ることができる貴重な文化財です。

琉球王国は中国との交易で栄えました。当時、座間味村は交易の中継地として重要で、海事に長けた島の祖先たちは、船頭、船員として活躍しました。特に、阿佐集落の目の前にある“阿護の浦”は波静かな深い入り江であり、船を動かすための風を待つ停泊地として大変に賑わったと伝えられています。